



## 適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希 積 数	使用液量	使用時期	本剤の 使 用 回 数	使 用 方 法	有 機 銅 を 含 む 農 薬 の 総 使 用 回 数	T P N を 含 む 農 薬 の 総 使 用 回 数		
りんご	斑点落葉病 黒点病 褐斑病 すす斑病 すす点病 輪紋病 モニリア病 炭疽病	1000倍	200~700ℓ/10a	収穫45日前 まで	3回 以内	散布	7回以内(塗布 は3回以内、散 布は4回以内)	3回以内		
	着色期前まで 但し、収穫30日 前まで									
	収穫30日前 まで									
かき	落葉病 うどんこ病 炭疽病	1000~ 1200倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	5回 以内	散布	8回以内(塗布 は3回以内、散 布は5回以内)	3回以内(休眠期 は1回以内)		
西洋なし	輪紋病 ごま色斑点病			収穫30日前 まで					12回以内(塗布 は3回以内、散 布は9回以内)	
きゅうり	褐斑病 べと病 斑点細菌病			収穫前日まで						5回以内
キャベツ	黒腐病 べと病	1000~ 1200倍	100~300ℓ/10a	収穫14日前 まで	2回 以内	散布	3回以内	3回以内(は種又 は定植前の土壌混 和は1回以内、散 布及びエアゾル剤 の噴射は合計2回 以内)		
はくさい	軟腐病 べと病 白斑病			収穫30日前 まで					3回 以内	3回以内(は種又 は定植前の土壌混 和は1回以内、散 布は2回以内)
レタス	すそ枯病 腐敗病 べと病 軟腐病			1000倍						
アスパラガス	茎枯病 斑点病 褐斑病	1000~ 1200倍	100~400ℓ/10a	収穫開始3日 前まで	4回 以内	散布	5回以内	4回以内		
しょうが	白星病 紋枯病	1000倍	100~300ℓ/10a	収穫14日前 まで	5回 以内			5回以内		
やまのいも	炭疽病 葉萎病	1000~ 1200倍		収穫30日前 まで				6回以内		





## ⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用直前に容器をよく振って薬剤を均一にする。
- 石灰硫黄合剤、水和硫黄剤等との混用はさける。
- 本剤は病害の多発時の使用では効果が劣る場合があるので病害の発生の多くならないうちに発生初期から1~2週間おきに予防的に散布する。
- りんごに使用する場合、サビ果の発生を多くすることがあるので、開花直前から落花20日頃までの使用はさける。また樹勢の良くない状態などで連続散布すると生理落葉を助長することがあるので注意する。特にゴールデン及びゴールデンからの育成品種では注意する。
- きゅうりの斑点細菌病、キャベツの黒腐病、はくさいの軟腐病、レタスの腐敗病、軟腐病などの細菌性病害防除に使用する場合、発病後の散布では効果が劣るので発病前~発病初期から予防的に散布する。
- かきに使用する場合、夏期高温時及び着色期以降の散布は、果実に薬害を生じるおそれがあるのでさける。
- 西洋なしに使用する場合、夏期高温時の散布は、葉に薬害を生じるおそれがあるのでさける。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 本剤は衣服等に付着すると着色するので取扱いに注意する。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## ⚠ 安全使用上の注意



- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用する。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさける。
- 夏期高温時の使用をさける。

治 療 法…該当なし

魚毒性等…水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用はさける。  
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

保 管…密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼な所。

- PRTR法
- 火災時は適切な保護具を着用し水・消火剤等で消火に努める。
  - 漏出時は、保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収する。
  - 移送取扱は、ていねいに行う。

